



The Bulletin

Bulletin vol 5, issue 9

2015年度の監査委員会の議題(要約)

2015年を展望すると、監査委員会は引き続き多くの課題や複雑な課題の増加に直面している。

実施したクライアントの監査委員会との交流、ラウンドテーブル、会議、その他のフォーラムにおける取締役との討議に基づいて、2015年に監査委員会が考慮すべき下記10項目の議題を設定した。

最初の5項目は全社、プロセス、テクノロジーに関する事項であり、残りの5項目は財務報告に関する事項である。

全社、プロセス、テクノロジーに関する事項

1. 変化する状況を反映して、会社のリスクファイルを更新する。

リスク評価プロセスは、新規のリスクや既存のリスクの変化を考慮し、適切なリスク管理能力を持つよう取り組む必要がある。

多くの監査委員会は会社のリスク評価、リスクアセスメント・プロセスとリスク管理能力に関して監督する責任を有している。この責任を明確にしていない委員会さえ、しばしば組織の重要リスクの概要を確認することを望んでいる。無数の事業の業務、財務、コンプライアンスのリスクはあらゆる組織の日々の活動の中にある。破壊的な変化をもたらす戦略的リスクは、時間とともにより明白になってきている。問題は、最新のリスク評価が新たなリスクを把握したものになっているかということである。

ビジネス環境が変化する現実のなかで、監査委員会は少なくとも毎年会社のリスク・プロファイルを確認すべきである。理想的には、この評価は、経営者、経営管理者によって更新されたリスク評価によって支援されなければならない。最も重要なリスクについては、監査委員会またはその他の委員会（取締役会がリスク管理に対してどのような体制をとるかによる）は、適切な行動計画がリスクに対応するために設けられていることを確認しなければならない。

参考までに、プロティビティが考える2015年のトップ10リスクは右記の通りである。

昨年の調査に比べて、リスクが増加している（↑）、リスクが減少している（↓）、2015年にトップ10に入った新しいリスク（N）、2014年にはトップ10に入っていたが2015年にはトップ10リスクから外れたリスクを示している。

2015年のトップ10リスク¹

1. 法規制の変更ならびに規制当局の監視強化が商品やサービスの納品、提供の方法に影響を与える可能性がある。 ↓
2. 後継者問題や有能な人材の引き留め、確保が事業目標の達成に対する能力を制限する可能性がある。 ↑
3. 現在、会社が商品やサービスを提供している市場の状況が会社にとっての成長機会を著しく妨げる可能性がある。 ↓
4. 会社の中核事業を著しく破壊し、ブランドを毀損しかねないサイバー攻撃の脅威を管理する準備が十分できていない可能性がある。 ↑
5. 会社の文化が、中核事業や戦略目標の達成に著しく影響を与えかねないリスク事項についての適時の識別や報告を促すものでない可能性がある。 N
6. 変化に対する抵抗が会社のビジネスモデルや中核事業に対する必要な調整の妨げとなる可能性がある。 ↑
7. 個人情報や身元情報の管理、情報セキュリティシステム保護を確実にするために、著しい人材の投入を必要とする可能性がある。 ↑
8. 会社の評判に著しく影響を与えかねない想定外の危機を管理するのに十分な準備ができていない可能性がある。 ↑
9. 顧客のロイヤルティを継続的に保持することが、顧客の嗜好の進化や顧客の地理的移行により難しくなりつつある可能性がある。 N
10. 破壊的な技術革新や業界内の新規テクノロジーの急激な進展が会社の競争力やリスク管理能力を上回り、ビジネスモデルを大幅に変更することができない可能性がある。 ↑

※ 政治的不安定、有機的成長のための機会、予想される金融市場ならびに通貨の不安定さ、米国におけるヘルスケア改革の不確実性の4つのリスクは2014年のトップ10リスクに入っていたが、2015年には入っていない。

1. プロティビティとノースカロライナ州立大学のERMイニシアティブチームが共同で、企業経営者を対象に実施した調査結果に基づく。本調査結果はwww.protiviti.comで入手可能。

2. 財務部門ならびに内部監査部門の能力が、期待に応えられるように監督する。

財務部門ならびに内部監査部門の能力は継続的に変化しているニーズや期待と整合したものでなければならない。

3. リスク管理や内部統制を弱体化させる秩序を乱す行動に対処するために、リスク文化に留意する。

経営トップならびに中間管理職の気風はリスク管理や内部統制の実践に影響する。

4. 新しいテクノロジーの開発や動向が、どのように会社に影響を与えるかを理解する。

テクノロジーの技術革新が、機密情報・個人情報、財務報告プロセス、会社のビジネスモデルの実行可能性に与える影響に気をつける。

5. 監査委員会の有効性を評価する。

監査委員会の構成、専門性、関与については会社の変化しつつあるビジネス環境やリスクプロファイルを考慮する必要がある。

財務報告に関する事項

6. 収益の認識基準に留意する。

FASBの新しい基準が財務報告システムに影響を与える可能性がある。

7. 監査アプローチに関するPCAOBの影響の有無について調査する。

PCAOBの監視、基準、ガイダンスは会社の監査プロセスの適切性に関する懸念を提起し、改訂の方向性を打ち出している。

8. COSOの内部統制の統合的フレームワークの改訂の影響を理解する。

改訂されたフレームワークの内部統制報告、内部監査業務等に与える影響を理解する。

9. 経営者の重要な会計上の見積りを理解し、評価する。

重要な判断を要する財務報告プロセスについて、確実に焦点を当てる。

10. 監査に関する改革の進捗状況について把握しておく。

多くの国において、報告事項の拡大、監査人のローテーション、その他の監査の方策が検討されている。

2015年は監査委員会にとって興味ある課題が提起されている。我々がこのBulletinで示唆している項目は、監査委員会が2015年の議題に包含することを検討すべき事項である。

プロティビティについて

プロティビティ (Protiviti) は、リスクコンサルティングサービスと内部監査サービスを提供するグローバルコンサルティングファームです。北米、日本を含むアジア太平洋、ヨーロッパ、中南米、中近東、アフリカにおいて、ガバナンス・リスク・コントロール・モニタリング、オペレーション、テクノロジー、経理・財務におけるクライアントの皆様の課題解決を支援します。プロティビティのプロフェッショナルは、経験に裏付けられた高いコンピテンシーを有し、企業が抱えるさまざまな経営課題に対して、独自のアプローチとソリューションを提供します。